

(7) 近畿



近畿地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

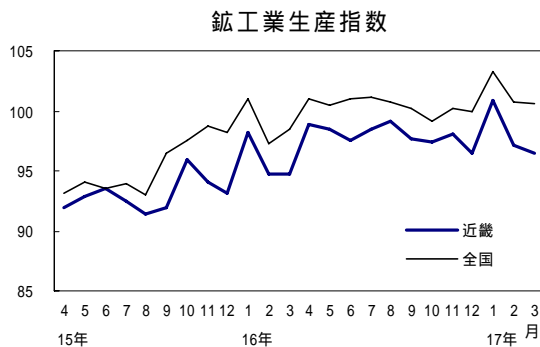
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 17 年 2 月）	今回（平成 17 年 5 月）	
住宅建設	増加	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

一般機械は、1月にガスタービンが増加したことから、全体でも増加している。化学は、春物の化粧品の新製品や合成性洗剤の生産が増加し、全体では増加している。電気機械は、冷蔵庫などにも使われる開閉性制御装置、セパレート型エアコンが減少、全体では2期連続の減少となっている。食料品・たばこは、清酒やたばこが増加したことから、2四半期ぶりに増加している。電子部品・デバイスは、携帯電話などに使用される固定コンデンサやパソコンなどに使用される大型及び携帯電話などに使用される中・小型の液晶素子が増加したため、4四半期ぶりに増加に転じている。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期		
一般機械	15.0	3.4	1.8	1.5	4.3		
化学	12.8	0.1	5.4	3.5	6.0		
電気機械	10.1	4.2	5.6	7.9	1.1		
食料品・たばこ	8.1	1.8	5.0	3.8	12.3		
電子部品・デバイス	7.9	7.7	5.1	4.0	7.3		
鉱工業	100.0	1.1	0.9	0.5	1.4		

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

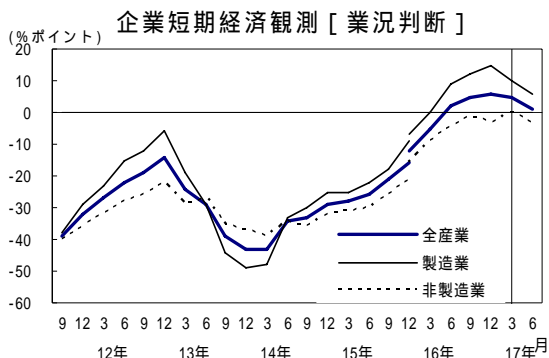
2. 1~3月期は速報値。

(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

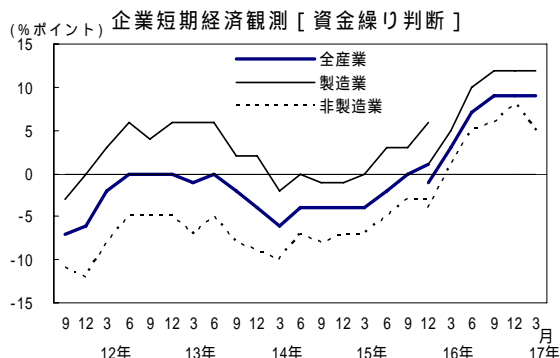
2. 平成16年12月の近畿は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

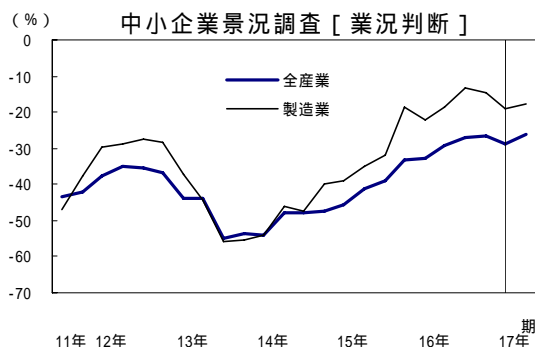
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年6月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

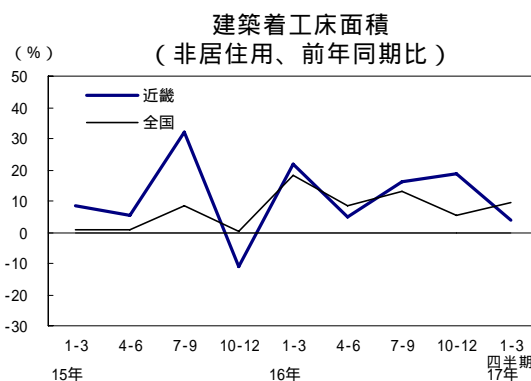
「当社の取引先には大手製鉄会社が多いが、引き合いは相変わらず活発であるものの、交渉に緊迫感がなく設備投資の先延ばしムードが出ている(一般機械製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 16年度の設備投資は前年度を上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	16年度実績見込み	17年度見込み
全産業	6.8 (1.1)	0.1
製造業	10.3 (2.4)	2.7
非製造業	4.0 (0.1)	2.5

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。



2. 需要の動向

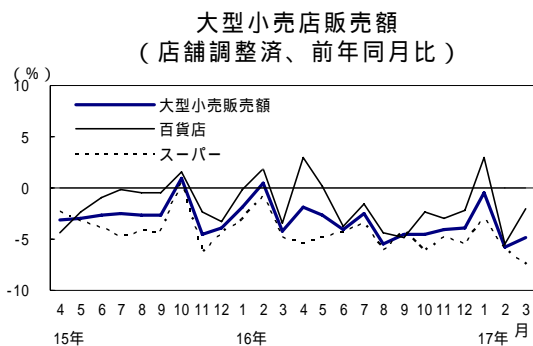
(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は気温が低下したことなどから、冬物商品を中心に衣料品等が好調に推移した。2月も気温が低めだったが、逆に春物商品に動きがみられず、衣料品、飲食料品、身の回り品等が前年を下回った。3月は、宝石・貴金属等の高額品に動きがみられたが、気温が低めだったため、春物商品に動きがみられず、衣料品、身の回り品等が前年を下回り、全体でも前年を下回ったが、一部店舗の改装の効果などもあり、減少幅は縮小している。なお、近畿百貨店協会によると、大阪地区の4月の売上高は、前年同月比で3.5%増となっている。スーパーでは、1月は気温の低下などから、冬物商品を中心に衣料品や家庭用電気機械器具などが前年を上回ったが、四半期を通じて、生鮮野菜や水産品などの飲食料品やその他の商品は不調であった。

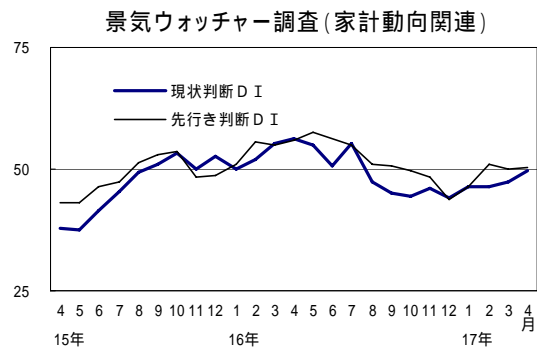
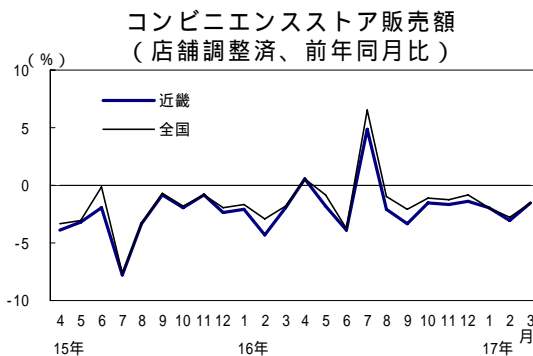
景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「最近、すぐにでも家を建てようという客よりは、展示場へ行楽気分で来場し、弁当を広げる客が増えた。展示場は、より身近な存在になっているかもしれないが、3年以上先にしか計画のない客が増えている(その他住宅[展示場])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	16年4-6月	7-9月	10-12月	17年1-3月
大型小売店	2.8	4.0	4.1	3.6
百貨店	0.2	3.3	2.5	1.3
スーパー	4.9	4.6	5.5	5.4
コンビニ	1.8	0.2	1.5	2.1
景気ウォッチャー	53.9	49.3	44.8	45.6

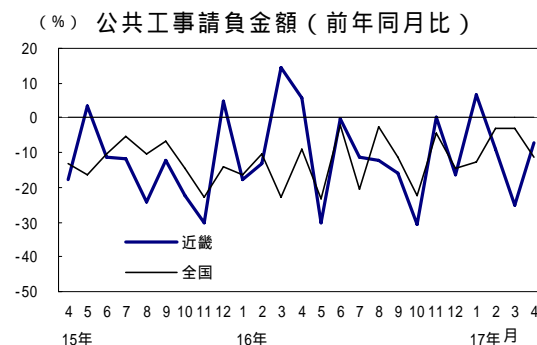
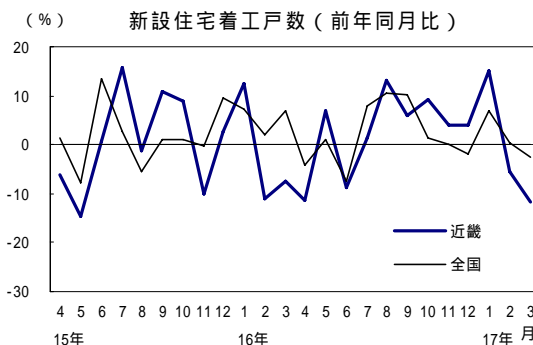
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は横ばいとなっている。

貸家と給与が前年を上回ったが、分譲と持ち家が前年を下回ったことから、全体では横ばいとなっている。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。

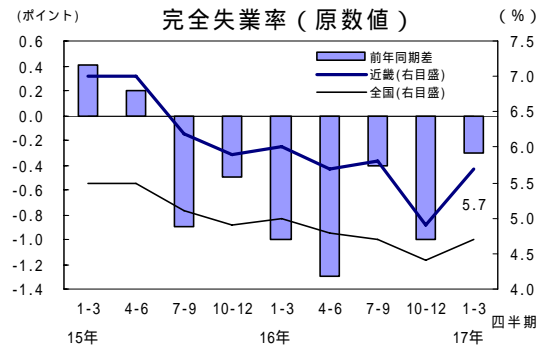
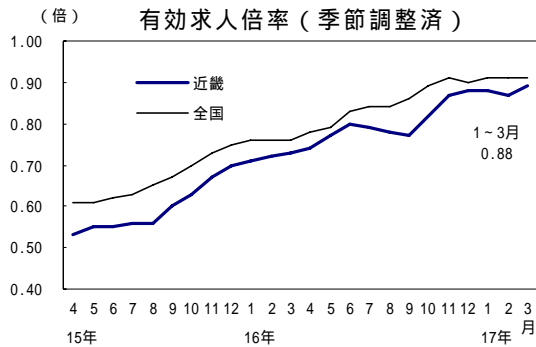


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(4月)[雇用関連(現状)]

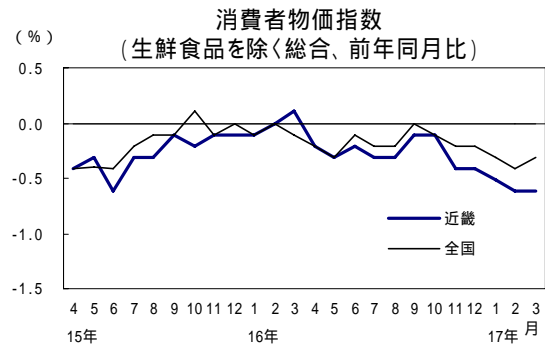
「企業からの求人依頼は、年度末の需要が一段落したような感があるが、それに代わる求人も発生しつつある(人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数が減少したが、負債総額は横ばいとなっている。

(3) 消費者物価指数は下落している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年4-6月	7-9月	10-12月	17年1-3月	17年4月
倒産件数	827	840	815	751	235
(前年比)	17.3	6.6	9.5	18.7	21.7
負債総額	2,799	3,796	6,128	6,186	1,071
(前年比)	54.2	50.3	3.7	1.9	24.8



景気ウォッチャー調査(4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・花粉症による鼻炎などで目薬、マスクなどの鼻炎商品の売上が好調である。また、コエンザイムQ10、アルファリポ酸などのサプリメントがよく売れている。特に化粧品関連では美白商品の動きが良い(その他専門店[医薬品])

<先行き>

- ・大阪市内の商業地に続き、東大阪市内の工業、業務用地の地価が上昇しつつあることから、先行きに期待できる(不動産業)

景気ウォッチャー調査(合計)

